						,	*/ I + 13		/• - / -
科目名		工学 力学、数学、図面、 閏滑、材料	英文名	Dynamics,	e Engineeri Mathemati n, Material	学科科目 番号	1-1		
担当者	川上 学		実務経験 の有無	無 選択 必修 科目 必修 必修 区分				専門科	目・講義
開講期	通年	前期: 2時間(回数:	16 回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	64 時間
教材 教具	二級講習用製図(日本自動車整備振興会) 基礎製図練習ノート(実教出版) 基礎自動車工学(日本自動車整備振興会) 内燃機関、燃料、油脂(自動車整備専門学校)								

【学修内容】科目のねらい(目的)

- JIS規格及び主として機械の分野の製図についての基礎的な知識を理解することを目的とする。
- ・自動車に用いられる材料の分類、材料記号、機械的性質、熱処理、及び非鉄金属の性質、非金属材料 の種類と用途など実用面に限定し、燃焼の理論を理解することを目的とする。
- ・ガソリン・エンジン、ジーゼル・エンジンの燃焼過程、排出ガスについては、他の科目での学習を参 照して進め、ガソリン、軽油、潤滑剤の規格、性状について理解することを目的とする。

				レクの計算を理解することを目的とする。				
【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)				
1	図面の重要性、JI	S規格、文字の練習	1	燃焼の理論、理論空気質量、空燃比				
2	補助記号、線の種類	・用途	2	ガソリン・エンジン、ジーゼル・エンジンの燃焼過程				
3	線の練習(直線・円	弧からなる図形)	3	自動車排出ガス				
4	用器画による平面図	形の作図	4	ガソリンの製造・性状・規格				
5	第3角方による投影	法の基礎	5	軽油の性状・規格				
6	前回のつづき(問題	練習	6	潤滑理論と潤滑剤の性状・規格				
7	等角図による品物の	見取り図の練習	7	SI単位、基本単位と組立単位				
8	前期中間試験		8	後期中間試験				
9	製作図の寸法記入、	断面図示法	9	指数法則と計算				
10	機械要素 (ねじ等)	の図示図	10	等速運動(車速、平均ピストン速度等)				
11	材料の分類、材料記	号(JIS規格)	11	等加速度運動				
12	鉄鋼の分類と用途、	金属材料の機械的性質と試験機	12	前時間の復習 (v - t 線図)				
13	熱処理法と性質の変	化	13	自動車の諸元 (排気量、圧縮比等)				
14	主な非鉄金属材料と	その性質	14	仕事と仕事率、自動車の走行抵抗、エンジン出力				
15	非金属材料の種類と	性質、複合材料	15	圧力、トルク(モーメント)、平行力の合成・分解				
16	前期期末試験		16 学年末試験					
	授業方法 業の進め方)	プリントにより練習問題を多く。 うにする。全般に計算力が弱いこ		せ、授業に主体的に参加させ理解を深めさせるよ と念頭に進める必要がある。				
	到達目標	国家試験に出題される計算問題を	と理角	军することができる。				
	找績評価の 万法と基準	・中間・期末考査及び随時行う/ ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を	: 10					
	巻時間以外に 公要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作						
-	多に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平昇	長の行	り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 行動を評価するものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。				

科目名	自動車二		英文名	Automotiv Structure	_	学科科目 番号	1-2		
担当者	橋口		実務経験 の有無	有	選択			専門科	目・講義
開講期	前期	前期: 2時間(回数:	16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	三級自重	動車整備士(総合)<日	本自動車	整備振興会	>				

【学修内容】科目のねらい(目的)

ガソリン・エンジンに関する知識 (エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など) を学習する。また部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

[ti	受業計画】	コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後期)
		方式、燃焼方式点火による分類、燃料の種類及び供給方式	
1	冷却方式、バルブ機構、 内機機関の分類 作動	その他の説明 方式、燃焼方式点火による分類、燃料の種類及び供給方式	
2	冷却方式、バルブ機構、		2
3	エンジン本体 レシブ	゜ロ・エンジンの概要、説明	3
4	エンジン本体 レシブ	プロ・エンジンの説明	4
5	潤滑装置 オイルの循	環等の説明	5
6	潤滑装置 オイル・ポン	プ等の説明	6
7	潤滑装置 オイル・フィ	ルター等の説明	7
8	前期中間試験		8
9	冷却装置 ウォータ・オ	ジンプ等の説明	9
10	冷却装置 ラジエータ	、ファン等の説明	10
11	冷却装置 不凍液等の	説明	11
12	燃料装置 電子制御式	た燃料噴射装置の説明	12
13	吸排気装置 エア・クリー	ーナの説明	13
14	吸排気装置 インレット・	マニホールドの説明	14
15	吸排気装置 エキゾース	パ・マニホールドの説明	15
16	前期期末試験		16
	授業方法 業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る楽しく行う。	だけ専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し
	到達目標	三級ガソリン自動車整備士の討る。	式験に合格できるレベルの知識を理解することができ
	成績評価の 方法と基準	・中間・期末考査及び随時行う。 ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を	
	業時間以外に 公要な学修	・自宅学習による授業ごとの予・課題、レポートは期日までに	
	多に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平	P居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 素の行動を評価するものである。 種養成施設としての基準を満たす必要がある。

	自動車	 L学 構造性能		Aut	Automotive Engineering 学科科目						
科目名	(シャミ		英文名		icture Perfor	_	assis)	番号	1-3		
担当者	者 武田 伊	呆晴	実務経験 の有無	7	有 選択 必修	1 以修	科目 区分	専門科目	1・講義		
開講期	通年	前期: 2時間(回数:	16 回)	後其	明: 2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	64 時間		
教材 教具		動車整備士(総合)<日	本自動車	整備扱	長興会>						
		目のねらい(目的) 『品名称や基本的な構造	・作動なま	田布記号	⊢スァレたF	りめしする	<u>.</u>				
		コマシラバス (前 期)	· THENCE	生用年 9		コマシラノ	_	期)			
		ー・ファクラス (Bil 列) 倫 自動車の原理と性能		1	第4章						
	チェ早 松前 由がる原理とf			1							
				2	パワー・ス						
	動車の安全			3	第5章		いタイヤ	燃安			
	新突時安全装置 ************************************			4	タイヤの種						
		力伝達装置 概要		5	タイヤカタ						
	'ラッチ本体権			6	第6章	·					
7 復	夏習テスト・角	军 説		7	ホィール・	アライメン	ト構造・	機能			
8 前	前期中間試験			8	後期中間試	検					
9 7	/ ニュアル・	トランスミッション構造・機	能	9	第7章	ブレーキ装	置概要				
10 オ	ーートマチック	ウ・トランスミッション構造	・機能	10 フート・ブレーキ構造・機能							
11	・ルク・コン/	ベータ構造・機能		11	第8章	フレーム及	びボデー				
12	・ランスファ	・ドライブシャフト構造・機	後能	12	第 11 章	シャシの点	点検				
13 F	、ランスファス	本体構造・機能		13		荷重計算及	及び公式				
14	ドライブシャ フ	フト構造・機能		14 重点項目復習ブレーキ装置							
15 7	ファイナルギー	ヤ及びディファレンシャル棒	構造・機能	15 重点項目復習タイヤ&アライメント							
16 第	第3章 アク	クスル及びサスペンション棚	光 要	16	学年末試験						
	車軸懸架式アク	クスル構造・機能		10 子牛木武峽							
18 #	トスペンション	ン構造・機能									
19 ป	リーフ・スプ	リング構造・機能									
	•	アリング装置 概要									
	ラック・ピニン	オン型									
22 前	前期期末試験										
	業方法 の進め方)	授業は講義形式で行い 楽しく行う。	、出来る方	だけ貝	専門用語は位	吏用せず、	わかり	やすい言葉	で説明し		
到:	達目標	三級自動車整備士の試	験に合格で	できる	ケベルの知	口識を理解	 解するこ	とができる	0		
・中間・期末考査及び随時行う小テスト:70% 成績評価の 方法と基準 ・出席率:20% ・授業態度点:10% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。											
	寺間以外に 要な学修	・自宅学習による授業・課題、レポートは期									
	こ当たって 留意点	授業態度点は、授業中 な姿勢があるかどうか また、出席数は自動車	などの平昇	長の行	「動を評価	トるもので	である。				

科目名		自動車整備関連 ンジン又はモータ)	英文名		rela	naintena ted or motor		学科科目 番号	1-4
担当者	橋口		実務経験 の有無	有 選択 必修 科目 必修 区分				専門科	目・講義
開講期	前期	前期: 2時間(回数:	16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	三級自重	助車整備士(総合)<日	本自動車	整備振興会	:>				

【学修内容】科目のねらい(目的)

エンジン整備における、各項目の分解・点検・組付け方法など具体的に説明し、故障探求や良否判定及 び整備の方法について、正しく理解する。

【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)
1	エンジン本体勢	整備① P.72	1	
2	エンジン本体勢	整備② P.77	2	
3	潤滑装置 P.9	91	3	
4	冷却装置 P.9	98	4	
5	吸排気装置 P.	104	5	
6	燃料装置 P.11	0	6	
7	前期中間試験		7	
8	エンジン電気数	接置 P.143	8	
9	始動装置 P.14	17	9	
10	充電装置 P.15	51	10	
11	点火装置 P.15	57	11	
12	予熱装置 P.15	59	12	
13	点検・整備 P.	341(1 概要、点検・整備①)	13	
14	点検整備②		14	
15	点検整備③ 育	前期期末試験	15	
16			16	
	授業方法 業の進め方)	基本的には教科書に従って講義の がら着実な定着を図る。	の形式	弋で進めるが、適宜確認テストなどを折り込みな
	到達目標	エンジン又はモータの各構成部品の ルを到達目標とする。	の名種	尔 及び点検・整備について、三級自動車整備士レベ
	対績評価の 万法と基準	・中間考査及び随時行う小テスト ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点をご	: 10%	•
	美時間以外に 公要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	をに当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平昇	長の行)、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 行動を評価するものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。

科目名	手仕した	ギエ佐・撚	最		英文名	Hand fin	ishing	rafts		学科科目	1-5
村日石	目名 手仕上げ工作・機械工作 				火人石	Machine	crafts		番号	1-9	
担当者	橋口昌又	文、室山健	司	9	ミ務経験	有	選択	必修	科目	亩胆利	■・実習
1534	青木拓昇	月、信定実			の有無	´H	必修	北沙	区分	子1 1/1	コ 大日
開講期	前期	前期:	8 時間	(回数	: 3回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	24 時間
教材 教具		カ車整備作業 ・シ編(日本				会) 三級(G • Di	編(日本日	自動車整	(備振興会)	

【学修内容】科目のねらい(目的)

┃工具の取り扱いや基本作業を理解することを目的とする。

上上	具の取り扱い*	P基本作業を理解することを目的	とする	$\mathfrak{D}_{\mathfrak{o}}$
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)
1	けがき・タップ (8mm	ı) 立て用の穴あけ	1	
2	けがき線上を切断作	業/タップ立て用穴あけ	2	
3	切断作業とタップ立	τ,	3	
4	やすり・ペーパー等位	使用し荒仕上げ	4	
5	荒仕上げ⇒仕上げ、	仕上げ 完成品の提出(提出物で評価)	5	
6			6	
7			7	
8			8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	
16			16	
17 18			17 18	てた中辺/て目のなかながは田十分 ひづっしたけ
19			19	工作実習(工具の名称及び使用方法 Vブロック作成) 工作実習(工具の名称及び使用方法 Vブロック作成
20	,		20	
	授業方法 業の進め方)	安全作業・整理・整頓・清掃を 作業を行う。	徹底	しながら、実車及び単体部品を使用して実践的な
	到達目標	工具を使用して、基本的な作業	ができ	きるようになる。
	戈績評価の 5法と基準	・V ブロックの完成度:60% ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を		% 点法で算出し、60 点以上を認定とする。
	美時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予・課題、レポートは期日までに		
	多に当たって の留意点	かどうかなどの平素の行動を評	価する	整頓・清掃、授業に取り組む積極的な姿勢がある るものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。

科目名	基本測定			英文名	Basic me	easure	ments		学科科目 番号	1-6
担当者		青、橋口昌 男、信定第		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習
開講期	前期	前期:	8時間(回数	女: 6 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	48 時間
教材教具			業(日本自動 本自動車整備		会) 三級	G • Dř	編(日本日	自動車整	(備振興会)	

【学修内容】科目のねらい(目的)

'	· · · · · · · ·	目し、基本的な測定作業を理解する	ることを目的とする。				
【授	業計画】	コマシラバス (前 期)	コマシラバス(後 期)				
		フロ・メータ、シリンダ・ゲージ)、(タイミング・ライト、回転計、バキ 、(電圧計、抵抗、電流計)	1				
9	測定実習(ノギス、マイク	フロ・メータ、シリンダ・ゲージ)、(タイミング・ライト、回転計、バキ					
		、(電圧計、抵抗、電流計) 'ロ・メータ、シリンダ・ゲージ)、(タイミング・ライト、回転計、バキ	3				
		、(電圧計、抵抗、電流計) フロ・メータ、シリンダ・ゲージ)、(タイミング・ライト、回転計、バキ					
7		、(電圧計、抵抗、電流計)	$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$				
5			5				
6			6				
$\begin{bmatrix} 7 \\ 9 \end{bmatrix}$			7				
8 9			8 9				
10			10				
11			11				
12			12				
13			13				
14			14				
15			15				
16			16				
17 18			17 18				
19			19				
20			20				
	受業方法 業の進め方)	安全作業・整理・整頓・清掃を作業を行う。	散底しながら、実車及び単体部品を使用して実践的な				
3	到達目標	測定機器を使用し、基本的な測定	 定作業ができるようになる。				
	:績評価の :法と基準	・テスト:60% ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を	: 20% 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。				
	授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
	に当たって の留意点	かどうかなどの平素の行動を評価	里・整頓・清掃、授業に取り組む積極的な姿勢がある 面するものである。 重養成施設としての基準を満たす必要がある。				

科目名	自動車	整備作業	英文名	Automob Practical			,	学科科目 番号	1-7	
担当者	7. 7	青、橋口昌文 男、信定実	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習	
開講期	通年 前期:12時間(回数:20回)			後期:12	時間	授業時数	408 時間			
教材 教具										

【学修内容】科目のねらい(目的)

単品部品と実車を使用して作動や構造、点検方法について理解することを目的とする。

【授	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)
1	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	1	
2	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	2	
3	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	3	
4	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	4	
5	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	5	エンジン実習(吸気・潤滑装置、冷却・燃料・排気ガス装置、始動・充電・点火装置)
6	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	6	エンジン実習(吸気・潤滑装置、冷却・燃料・排気ガス装置、始動・充電・点火装置)
7	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	7	エンジン実習(吸気・潤滑装置、冷却・燃料・排気ガス装置、始動・充電・点火装置)
8	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	8	エンジン実習(吸気・潤滑装置、冷却・燃料・排気ガス装置、始動・充電・点火装置)
9	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	9	エンジン実習(吸気・潤滑装置、冷却・燃料・排気ガス装置、始動・充電・点火装置)
10	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	10	エンジン実習(吸気・潤滑装置、冷却・燃料・排気ガス装置、始動・充電・点火装置)
11	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	11	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
12	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	12	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
13	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	13	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
14	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	14	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
15	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	15	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
16	エンジン実習(ガソリン、		16	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
17	エンジン実習(ガソリン、	ジーゼル)分解組み付け	17	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
18 19			18 19	電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ 電子制御装置、ディファレンシャル、ドライブ・シャフト、油圧式ブレーキ
20	前期期末試験		20	単1 前岬表直、ノイノリレンジャル、ドノイノ・シャンド、加川スノレ イ 学年末試験
	授業方法 業の進め方)	安全作業・整理・整頓・清掃を存 作業を行う。	散底	しながら、実車及び単体部品を使用して実践的な
	到達目標	工具を使用して、基本的な整備化	乍業な	ぶできるようになる。
	対績評価の 対法と基準	・期末考査及び小テスト:60%・出席率:20%・授業態度点以上3項目を合計し、評価点を	: 20	% 点法で算出し、60 点以上を認定とする。
	美時間以外に 公要な学修	・自宅学習による授業ごとの予う ・課題、レポートは期日までに		
	をに当たって の留意点	かどうかなどの平素の行動を評価	西する	整頓・清掃、授業に取り組む積極的な姿勢がある るものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。

科目名	自動車コ	自動車工学 電気・電子理論				tive Engi ity and el	neering ectronic t	heory	学科科目 番号	1-8
担当者	橋口	橋口昌文			有	有 選択 必修 必修		科目 区分	専門科目・講義	
開講期	後期	前期:	時間(回数	文: 回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間
教材 教具										

【学修内容】科目のねらい(目的)

電気・電子の基礎から電気回路までの基礎を理解することを目的とする。

	逆がり电刈凹的よくの基礎を延伸 り								
【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)						
1		1	電気とは電子、電流、電圧						
2		2	電位差、起電力、電気抵抗						
3		3	3作用 熱、科学、磁気、交流、直流						
4		4	電気用図記号 部品特性と回路図						
5		5	オームの法則 計算式と演習、電圧降下、電力						
6		6	半導体、コンデンサ 働きと特徴、その種類						
7		7	磁束、磁界 電磁力、電磁誘導、起電力						
8		8	後期中間試験						
9		9	バッテリ 極板の種類と特徴、構造と機能						
10		10	始動装置 構造、機能、電磁力、回路図						
11		11	充電装置 構造、機能、整流、制御						
12		12	点火装置 自己、相互誘導作用、マイコン制御						
13		13	電子制御装置 概要、系統、吸気、燃料						
14		14	制御、点火系、復習						
15		15	灯火装置・計器他 概要、構造、機能						
16		16	学年末試験						
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る7 楽しく行う。	だけ耳	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し						
到達目標	三級自動車整備士の試験に合格で	できる	るレベルの知識を理解することができる。						
成績評価の 方法と基準									
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予覧 ・課題、レポートは期日までに付								
履修に当たって の留意点	た姿勢があるかどうかたどの平素の行動を評価するものである								

_						※授業の	01単位	7時間は45	分とする
科目名	自動車整	を備 エンジン・故障探究	英文名	Automobi	le maint	tenance		学科科目	9-0
村日石	(ガソ!	リン)	央 义 石	Engine, tr	oublesh	ooting (Ga	asoline)	番号	2-9
担当者	山本 裕次郎		実務経験	有	選択	必修	科目	専門科	目・講義
1534	四本 章	在1人以	の有無	用	必修	2016	区分	411/14	口 神我
開講期	前期	 前期: 2 時間(回数:	16回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
	14 4 / / / 4	13777 - 1774 (54774	414	(, , , , , , ,		354714 4394	0 11.4
教材	「二纮~	ガソリン自動車」(日本日	白動宙敷供	七 翩					
教具		タノソン日期早」(日本)	コ男早電佣	1火兴云)					
【学修内	【学修内容】科目のねらい(目的)								
ガソリン	ガソリン・エンジンの本体及び各装置の構造・機能や整備方法についての知識を身に付けることを目的								
レナス									

とす	する。	
【挖	受業計画】 コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後 期)
1	エンジン本体 レシプロ・エンジン整備の説明	1
2	エンジン本体 レシプロ・エンジン整備の説明	2
3	潤滑装置の整備の説明	3
4	冷却装置の整備の説明	4
5	燃料装置、吸排気装置の整備の説明	5
6	点火装置の整備の説明	6
7	電子制御装置の整備の説明	7
8	前期中間試験	8
9	エンジンの点検・整備 エンジン・オイル、冷却水の点検の説明	9
10	エンジンの点検・整備 補機類の駆動用ベルト、エア・クリーナの点検の説明	10
11	エンジンの点検・整備 フューエル・フィルタ、バッテリの点検の説明	11
12	エンジンの点検・整備 スパーク・ブラグ、ハイテンション・コードの点検の説明	12
13	エンジンの点検・整備 バルブ・クリアランス、圧縮圧力、フューエル・ポンプの点検の 説明	13
14	エンジンの点検・整備 排気の状態、アイドル回転速度、エンジン始動状態、低速・ 加速状態の点検の説明	14
15	エンジンの点検・整備 充電状態、電気配線、排気ガス浄化装置の点検の説明	15
16	前期期末試験	16
	授業方法 授業は講義形式で行い、出来る業の進め方) 楽しく行う。	だけ専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し
	到達目標 三級ガソリン自動車整備士の試る。	は験に合格できるレベルの知識を理解することができ
	大績評価の ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を	
	き時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに	
1,5013	『に当たって な姿勢があるかどうかなどの平 の留音点 な姿勢があるかどうかなどの平	居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的素の行動を評価するものである。 種養成施設としての基準を満たす必要がある。

科目名		自動車整備 エンジン・故障探究 (ジーゼル)		英文名	Automobile maintenance Engine, troubleshooting (Diesel)				学科科目 番号	2-10	
担当者	武田 伊	吊晴			実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	前期	前期:	2 時間	(回数:	16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	「三級ジーゼル自動車」(日本自動車整備					振興会)					

【学修内容】科目のねらい(目的)

ジーゼル・エンジンの本体及び各装置の構造・機能や整備方法についての知識を身に付けることを目的

T#	受業計画】 コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後期)
1	エンジン本体 エンジン(シリンダ、ピストン等)整備の説明	1
2	エンジン本体 エンジン(コンロッド、クランクシャフト等)整備の説明	
3	潤滑装置の整備の説明	
4	冷却装置の整備の説明	
5	インジェクション・ポンプ本体の整備の説明	5
6	インジェクション・ノズル、フューエル・フィルタ等の整備の説明	
7	吸排気装置の整備の説明	
8	前期中間試験	8
9	エンジンの点検・整備 エンジン・オイル、冷却水の点検の説明	
10	エンジンの点検・整備 補機類の駆動用ベルト、エア・クリーナの点検の説明	10
11	エンジンの点検・整備フューエル・フィルタ、バッテリ、予熱装置の点検の説明	11
12	エンジンの点検・整備 バルブ・クリアランス、圧縮圧力、噴射時期の点検の説明	12
13	エンジンの点検・整備アイドル回転速度、エンジン始動状態の点検の説明	13
14	エンジンの点検・整備 低速・加速状態の点検の説明	14
15	エンジンの点検・整備 充電状態、排気ガスの状態(ジーゼル黒煙)、排気ガス浄化変	
	置の点検の説明	
16	前期期末試験	16
	授業方法 業の進め方) 楽しく行う。	だけ専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し
	三級ジーゼル自動車整備士の記 る。	式験に合格できるレベルの知識を理解することができ
	・中間・期末考査及び随時行う ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を	
	き時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予 公要な学修 ・課題、レポートは期日までに	
	『に当たって な姿勢があるかどうかなどの平の留音点 な姿勢があるかどうかなどの平	P居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的素の行動を評価するものである。 種養成施設としての基準を満たす必要がある。

科目名	自動車整	至備 シャシ・故障探究	英文名	Automob Chassis t		mainte shooting		学科科目 番号	2-11
担当者	山本 裕次郎 実務経験 の有無			有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講期	前期	前期: 2時間(回数:	16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	「三級自動車シャシ」(日本自動車整備振興会)								

【学修内容】科目のねらい(目的)

自動車シャシの構造・機能及び点権方法についての知識を身に付けることを目的とする。

			つ知識を身に付けることを目的とする。
【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後 期)
1	第2章 動力位	云達装置 分解・点検・調整方法	1
2	第3章 アクセ	ビル及びアクスル	
3	車軸懸架・独立	z懸架・スプリングの分解・点検	3
4	第4章 スラ	テアリング	4
5	ステアリングの	の種類・点検・調整・分解方法	5
6	第5章 ホノ	ィール及びタイヤ	6
7	タイヤ・ホィー	ールの種類、整備点検・調整・整備方法	7
8	前期中間試験		8
9	第6章 ホノ	ィール・アライメント	9
10	トー・キャンパ	·・キャスタ調整・整備方法	10
11	第7章 ブレ	ノーキ装置	11
12	フート・ブレー	ーキ装置の点検と調整及び整備	12
13	第8章 フレー	- ム及びボデー自動車の分類と部位名	13
14	第11章 シャ	シの点検・整備	14
	不具合現象と点	気検・調整方法	
16	前期期末試験		16
	授業方法 業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る7 楽しく行う。	どけ専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し
	到達目標	三級自動車整備士の試験に合格で	できるレベルの知識を理解することができる。
	戈績評価の 5法と基準	・中間・期末考査及び随時行うか ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点をご	
	業時間以外に 凶要な学修	・自宅学習による授業ごとの予覧 ・課題、レポートは期日までに作	
	多に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平素	居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 素の行動を評価するものである。 重養成施設としての基準を満たす必要がある。

							※授業の	ひ 1 単位	広時間は 45	分とする		
					Automobil	e maint	enance		学科科目			
科目	名	自動車	整備 電装・故障探究	英文名	Electrical	compon	ents		番号	2-12		
					troublesho				田々			
担当	省者	川上 学	:	実務経験 の有無	無	選択	必修	科目区分	専門科目	目・講義		
開請	事期	前期	前期: 2時間(回数:		後期:		(回数:	回)	授業時数	32 時間		
教	*	「二級~	L ガソリン自動車」(日本[白動宙敷借	上脚子)							
教			自動車シャシ」(日本自動									
	【学修内容】科目のねらい(目的)											
自動	力車電	重装品の 権	構造・機能及び点検方法	についての	り知識を身	に付け	ることを	目的と	する。			
【授	業計	十画】	コマシラバス(前 期)			コ	マシラバ	ズ(後	期)			
1	バッテリ				1							
$\begin{vmatrix} 1 \\ 2 \end{vmatrix}$	バッテ		電方法(定電流・定電圧) ブースタ・ケーブル	レの接続方法	$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$							
3	始動装		なび良否判定		3							
$\begin{vmatrix} 1 & 4 \end{vmatrix}$		置 脱着方法及			$\begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$							
5		置車上点検及			5							
6		置脱着方法及			$\begin{bmatrix} 0 \\ 6 \end{bmatrix}$							
$\begin{bmatrix} 0 \\ 7 \end{bmatrix}$		置 イグニション			$\begin{bmatrix} 0 \\ 7 \end{bmatrix}$							
8		引制試験	D. C. Sampa		8							
9			プラグの点検及び良否判定		9							
10		造 故障探求			10							
11		御装置 各種			11							
12			も置(フューエル・ポンプ)の点検		12							
13			装置(燃料圧力 インジェクタ)の点検		13							
14			ト・スイッチ、各種メータの点検		14							
15			各システムの点検		14 15							
16		非試験	T V V V V V V V V V V V V V V V V V V V		16							
10	1179179	17/CIPVOX			10							
		方法 進め方)	授業は講義形式で行い 楽しく行う。	、出来るが	だけ専門用	語は使	用せず、	わかり	やすい言葉	で説明し		
;	到達	目標	 三級自動車整備士の試	験に合格で	できるレベ	ルの知	識を理解	するこ	とができる	0		
		平価の : 基準	・中間・期末考査及び ・出席率:20% ・授 以上3項目を合計し、	: 10%		、60 点↓	以上を認	忍定とする。				
	授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。											
		当たって 意点	授業態度点は、授業中 な姿勢があるかどうか また、出席数は自動車	などの平昇	素の行動を	評価す	るもので	ある。				

科目名		自動車工学 構造性能 (ガソリン)				tive Eng re Perfor	ineering mance (Ga	asoline)	学科科目 番号	2-13
担当者	山本 衤	山本 裕次郎			有	選択 必修	12.41%	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	: 回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間
教材 教具	「二級ス	「二級ガソリン自動車」(日本自動車整備振興会)								

【学修内容】科目のねらい(目的)

ガソリン・エンジンに関する知識 (エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など) を学習する。また部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1		1	燃焼方式の説明					
2		2	バルブ・タイミングの説明					
3		3	ガソリン・エンジンの性能の説明					
4		4	排ガス対策、ノッキングの説明					
5		5	エンジン本体 エンジン本体の説明					
6		6	エンジン本体 バルブ機構の説明					
7		7	エンジン本体 可変バルブ・タイミング機構の説明					
8		8	後期中間試験					
9		9	潤滑装置 オイルの循環・冷却、油圧の制御の説明					
10		10	冷却装置 構造、・機能、電動ファンの説明					
11		11	燃料装置 構造・機能、電子制御式 LPG 燃料装置の説明					
12		12	電子制御装置 燃料噴射制御の説明					
13		13	電子制御装置 燃料噴射制御の説明					
14		14	吸排気装置 過給機、可変吸気装置の説明					
15		15	電気装置 点火装置の説明					
16		16	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る7 楽しく行う。	ごけ耳	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し					
到達目標	二級ガソリン自動車整備士の試 る。	験に	合格できるレベルの知識を理解することができ					
成績評価の 方法と基準	・中間・期末考査及び随時行う// ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点をご	: 109						
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たって の留意点	- トル公勢があろかどうかたどの平素の行動を評価するものである							

科目名	自動車工学 構造性能 (ジーゼル)			英文名	Automotive Engineering Structure Performance (Diesel)				学科科目 番号	2-14
担当者	武田 伊	录晴		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	(: 回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間
教材教具	「二級ジーゼル自動車」(日本自動車整備振興会)									

【学修内容】科目のねらい(目的)

ジーゼル・エンジンに関する知識 (エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など) を学習する。また部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1		1	燃焼方式の説明					
$\begin{bmatrix} 2 \\ 2 \end{bmatrix}$		2	バルブ・タイミングの説明					
3		3	ジーゼル・エンジンの性能の説明					
4		4	排ガス対策、ジーゼル・ノックの説明					
5		5	酸化触媒、DPF等の説明					
6		6	コモンレール式高圧燃料噴射システムの説明					
7		7	エンジン本体 エンジン本体の説明					
8		8	後期中間試験					
9		9	潤滑装置 オイルの循環・冷却、油圧の制御の説明					
10		10	冷却装置 構造、・機能、ファン・クラッチ、電動ファンの説明					
11		11	燃料装置 コモンレール式高圧燃料噴射装置の説明					
12		12	燃料装置 コモンレール式高圧燃料噴射装置の説明					
13		13	燃料装置 ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置の説明					
14		14	燃料装置 ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置の説明					
15		15	吸排気装置 ターボ・チャージャ、慣性過給装置の説明					
16		16	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来るだ 楽しく行う。	`け ^真	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し					
到達目標	二級ジーゼル自動車整備士の試験 る。	剣に	合格できるレベルの知識を理解することができ					
成績評価の 方法と基準								
授業時間以外に 必要な学修								
履修に当たって の留意点								

科目名	自動車工学 構造性能 (シャシ)			英文名	Automotive Engineering Structure Performance (Chassis)				学科科目 番号	2-15
担当者	武田 保晴			実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	女: 回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間
教材教具	「二級自動車シャシ」(日本自動車整備振興会)									

【学修内容】科目のねらい(目的)

┃自動車シャシの部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

	即四右你で茶本的な構造・肝期でも	工刀干 🤈	O S C C E HHJC 7 'S'					
【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)					
1		1	第1章 総論 自動車の発達					
2		2	自動車の性能 性能曲線					
3		3	走行性能 関連公式					
4		4	第2章 動力伝達装置 クラッチ					
5		5	変速機					
6		6	制御装置					
7		7	後期中間試験					
8		8	第3章 アクスル及びサスペンション					
9		9	エア・スプリング					
10		10	第4章 ステアリング装置					
11		11	旋回性能、コーナリング・フォース					
12		12	ラック・ピニオン型電子制御式					
13		13	電動式パワー・ステアリング					
14		14	第5章 タイヤ					
15		15	第6章 ホイール、アライメント					
16		16	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る7楽しく行う。	だけ	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し					
到達目標	二級自動車整備士の試験に合格で	できる	るレベルの知識を理解することができる。					
成績評価の 方法と基準								
授業時間以外に 必要な学修								
履修に当たって の留意点	- トな姿勢があるかどうかたどの平素の行動を評価するものである							

科目名	自動車工学 電気・電子理論		英文名		Automotive Engineering Electricity and electronic the			学科科目 番号	2-16	
担当者	川上 学			実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	女: 回)	後期: 2	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間
教材 教具	「二級ガソリン自動車」(日本自動車整備振興会) 「二級自動車シャシ」(日本自動車整備振興会)									

【学修内容】科目のねらい(目的)

自動車電装品の部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)					
1		1	復習 電子、静電気、電流、電圧					
2		2	復習 電位差と電流、磁気					
3		3	半導体 種類と働き					
4		4	バッテリ 充放電、温度と比重					
5		5	始動装置 各機能部品、出力特性図					
6		6	充電装置 交流の発生、整流、電圧制御					
7		7	点火装置 高電圧発生の原理、点火プラグ					
8		8	後期中間試験					
9		9	電子制御 概要(システム図)					
10		10	電子制御 アクチュエータの制御					
11		11	電子制御 ECUによる制御					
12		12	電子制御 ISCの働き、点火系制御					
13		13	計器、警報装置 各計器の作動					
14		14	エア・コンディショナ エア・ミックス方式、冷凍サイクル					
15		15	安全装置、通信 エア・バッグ、シートベルト					
16		16	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る2楽しく行う。	だけ『	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し					
到達目標	二級自動車整備士の試験に合格で	できる	るレベルの知識を理解することができる。					
成績評価の 方法と基準	・中間・期末考査及び随時行う小テスト:70% ・出席率:20% ・授業態度点:10% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修								
履修に当たって の留意点	- トルダ劉があろかどうかなどの半素の行動を評価するものである。							

科目	1名	自動車	整備作業	英文名	_	omobile maint	enance		学科科目 番号	2-17		
担当	当者	武田 6 ・室山	保晴、山本 裕次郎 健司・信定 実	実務経験 の有無		有 選択 必修	必修	科目区分	専門科目	目・実習		
開請	講期		前期:12時間(回数:		後期:12時間(回数:19回) 授業時数 480 時							
	材		L 二級G・D編(日本自動車									
_	.具 之修才		□級シャシ編(日本自動車 目のねらい(目的)	重整備振興会	会)							
			を使用して作動や構造、	点検方法は	こつし	ヽて理解する	ことを目	的とすん	る。			
【授	受業計	画]	コマシラバス(前 期)			コ	マシラバ	バス(後	期)			
1	ハイブリ	Jッド・ボデー電装	、分配型、列型インジェクション・ポンプ、ノズ	ル分解組付け	1	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
2	ハイブリ	Jッド・ボデー電装	、、分配型、列型インジェクション・ポンプ、ノズ	ル分解組付け	2	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
3	ハイブリ	Jッド・ボデー電装	、、分配型、列型インジェクション・ポンプ、ノズ	ル分解組付け	3	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
4	ハイブ!	Jッド・ボデー電装	、分配型、列型インジェクション・ポンプ、ノズ	ル分解組付け	4	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
5	ハイブリ	Jッド・ボデー電装	、、分配型、列型インジェクション・ポンプ、ノズ	ル分解組付け	5	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
6			え、分配型、列型インジェクション・ポンプ、ノズ		6	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
7		アル・トフンスミッミ 置分解・組み付け	ンョン、オートマチック・トランスミッション、真空 †	式制動怡刀装置•	7	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
8	安全装	置分解・組み付け			8	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
9	安全装	置分解・組み付け			9 走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置							
10		「ル・トフンノミッ: 置分解・組み付い	ンョン、オートマチック・トランスミッション、真空 け	: 八制期怡刀装直•	10	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
11	安全装	置分解・組み付け			11	走行装置・A/T、エフ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
12	安全装	置分解・組み付け			12	12 走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置						
13	安全装	置分解・組み付け			13 走行装置・A/T、エア油圧ブレーキ・制動倍力装置							
14		アル・トランスミッ 全装置分解・組み	ション、オートマチック・トランスミッション、真 ト付け	空式制動倍力装	14	走行装置・A/T、エ	ア油圧ブレーキ・	制動倍力装置				
15	サスペ	ンション(フロント	・リヤ)分解・組み付け タイヤ組み換え・バラン	ノス調整	15 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係							
16	サスペ	ンション(フロント	・リヤ)分解・組み付け タイヤ組み換え・バラン	/ス調整	16	16 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係						
17			・リヤ)分解・組み付け タイヤ組み換え・バラン		17	17 懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係						
18 19			・リヤ)分解・組み付け タイヤ組み換え・バラン・リヤ)分解・組み付け タイヤ組み換え・バラン		18	懸架装置、操舵装置、						
20		ンション(ノロンド 末試験	*リド/刀牌・組み刊/) クイド組み挟ん・ハン。	/ / 泂 筐	19 20	懸架装置、操舵装置、 学年末試験	電装品、円装医]保				
	授業		安全作業・整理・整頓	清掃を			車及び単	鱼体 部品	を使用して	実践的な		
		進め方)	作業を行う。			. Sect. I. de						
到達目標 工具や測定機器を使用し、基本作業や測定作業、整備作業ができるようになる。								る。				
	成績評価の 方法と基準 ・ 出席率: 20% ・授業態度点: 20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。											
		間以外に よ学修	・自宅学習による授業・課題、レポートは期									
-	履修に当たって の留意点 授業態度点は、身だしなみや整理・整頓・清掃、授業に取り組む積極的な姿勢がある かどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は自動車整備士一種養成施設としての基準を満たす必要がある。											

履修に当たって

の留意点

						※授業の	01単位	立時間は 45	分とする
科目名	 自動車	整備 シャシ・故障探究	英文名	Automobi				学科科目	3-18
		実務総		Chassis tr		ooting	1) H	番号	
担当者	伊丹	直毅	実務経験 の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目	・講義
開講其	前期	前期: 2時間(回数:	16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	「二級	自動車シャシ」(日本自動	動車整備振	興会)					
【学修内容】科目のねらい(目的) 自動車シャシの構造・機能及び点検方法についての知識を身に付けることを目的とする。									
【授業	(計画)	コマシラバス(前 期)			コ	マシラバ	ス(後	期)	
1 第	7章 ブレ	ーキ装置性能・概要		1					
2 7	ンチロック	・ブレーキシステム(ABS	3)	2					
3	ラクション	・コントロール、エキゾース	トブレーキ	3					
4 エ	ディ・カレ	ント・リターダ		4					
5 ア	ライメント	、タイヤ整備士試験抜粋		5					
6 7	レーキ、総	合整備士試験抜粋		6					
7 第	8章 フレ	ーム及びボデー		7					
8 前	丁期中間試験			8					
9 >	ヤシ全般と	荷重計算復習問題		9					
10 第	12 章故障原	原因探求 駆動系復習問題		10					
11 サ	スペンショ	ン系整備士試験抜粋		11					
12 ス	テアリング	系整備士試験抜粋		12					
13 プ	レーキ系整	備士試験抜粋		13					
14 総	合問題・基	礎計算		14					
15 総	:合問題			15					
16 前	期期末試験			16					
	業方法 の進め方)	授業は講義形式で行い 楽しく行う。	 、出来るが	 だけ専門用	語は使	 用せず、	わかり	やすい言葉	 で説明し
到達目標 二級自動車整備士の試験に合格				できるレベ	ルの知	識を理解	するこ	とができる。)
成績評価の 方法と基準 ・中間・期末考査及び随時行う小テスト:70% ・出席率:20% ・授業態度点:10% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。									
	持間以外に そな学修	・自宅学習による授業・課題、レポートは期	•			-			

授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的

また、出席数は自動車整備士一種養成施設としての基準を満たす必要がある。

な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。

【令	和7年度	きシラバス】 「	岡山科学技術	専門学校		学科名	(国際	自動車工学	烂科)3年
						※授業の	ひ1単位	立時間は 45	分とする
科目	名自動車	整備 電装・故障探究	英文名		lle mainter nts trouble		ectrical	学科科目 番号	3-19
担当	者川上	学	実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講	期前期	前期: 2 時間 (回	数: 16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
	具 「二級 修内容】科	ガソリン自動車」(日 :自動車シャシ」(日本 目のねらい(目的) 構造・機能及び点検フ	自動車整備振	興会)	事に付け	ることを	目的と	する。	
【授	業計画】	コマシラバス(前	期)		コ	マシラバ	ス(後	期)	
1	始動装置	システム点検作業		1					
2	始動装置	各単体部品点検		2					
3	充電装置 き	/ステム点検作業		3					
4	充電装置 名	子単体部品点検		4					
5	点火装置	/ステム点検作業		5					
6	点火装置 名	各単体部品点検		6					
7	前期中間試験			7					
8	2 4 114711	犬況別トラブルシュート		8					
		単体部品点検、ダイアグ点検		9					
	計器、警報装置			10					
		エアミックス方式、冷凍サ	イクル	11					
	エアコンディショナ	エアコンガス充填		12					
13	安全装置ス	テアリングホイール取外し、取付け		13					

13 安全装置 ステ	アリングホイール取外し、取付け	13				
14 安全装置 巧	'バッグ、シートベルト点検	14				
15 ナビシステム	操作と設定	15				
16 前期期末試験		16				
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る7 楽しく行う。	だけ専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し				
到達目標 二級自動車整備士の試験に合格できるレベルの知識を理解することができる。						
成績評価の 方法と基準	・中間・期末考査及び随時行うん ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を					
授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平昇	居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 素の行動を評価するものである。 重養成施設としての基準を満たす必要がある。				

科目名	機器の構造取扱の検査機器			英文名	Structure equipment		学科科目 番号	3-20		
担当者	伊丹 诓	直毅		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講期	前期	前期:	2時間(回数:	10 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	20 時間
教材教具	「自動車検査用機械器具の構造と取扱い」(日本自動車機械工具協会)									

【学修内容】科目のねらい(目的)

自動車の状態を確認するための各種機器の取り扱い、保守の仕方、車両の良否判定方法を理解すること

を目	目的とする。						
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)			
1	第1章	自動車検査用機械器具に関する法令	1				
2	第2章	サイドスリップ・テスタ	2				
3	第3章	ブレーキ・テスタ	3				
4	第4章	速度計試験機(スピードメータ・テスタ)	4				
5	第5章	前照灯試験機(ヘッドライト・テスタ)	5				
6	第6章	音量計、騒音計	6				
7	第8章	黒煙測定器 第9章 オパシメータ	7				
8	前期中間試	験	8				
9	第8章	黒煙測定器 第9章 オパシメータ	9				
10	検査用機器	関連問題の解説 ≪学科終了テスト≫	10				
11			11				
12			12				
13			13				
14			14				
15			15				
16			16				
	授業方法 業の進め方		の形式	で進めるが、適宜確認テストなどを折り込みな			
	到達目標	二級自動車整備士レベルの知識を	を理解	?することができる。			
	成績評価の 方法と基準 ・中間考査及び随時行う小テスト:70% ・出席率:20% ・授業態度点:10% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
	受業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
	履修に当たって の留意点 が姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は自動車整備士一種養成施設としての基準を満たす必要がある。						

科目名	自動車工学 力学、数学、図面、燃料、潤滑、材料		英文名	Dynamics, Mathematics, Drawing, Fuel, Lubrication, Material			学科科目 番号	3-21	
担当者	川上		実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	通年	通年 前期: 2時間(回数: 6回)			2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	44 時間
教材教具	2級自動車ガソリン問題と解説(公論出版) 2級自動車ジーゼル問題と解説(公論出版)								

【学修内容】科目のねらい(目的)

自動車整備士に求められる数学の知識を学習し、国家資格に必要な計算問題を理解することを目的とす る。

【授	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1			1	前期の復習(SI単位、等加速度運動)					
2			2	前期の復習(仕事・仕事率)					
3			3	力の分解・つり合い(摩擦力、三角関数)					
4			4	回転体の力学(遠心力、安定性)					
5			5	平均有効圧力と出力(指圧線図)					
6			6	エンジンの性能、自動車走行性能復習					
7			7	歯車装置の復習					
8			8	後期中間試験					
9			9	軸荷重の計算復習H					
10			10	二級整備士試験問題より当該分野別問題(第1回)					
11	SI単位·等加速度運動の)復習	11	二級整備士試験問題より当該分野別問題(第2回)					
12	仕事・仕事率の復習		12	二級整備士試験問題より当該分野別問題(第3回)					
13	歯車装置(ギヤ比とトルク	ク比、差動歯車装置)	13	総合模擬問題演習(第1回)					
14	エンジン性能、自動車走	行性能	14	総合模擬問題演習(第2回)					
15	軸荷重の計算(重心)		15	総合模擬問題演習(第3回)					
16	前期期末試験		16	学年末試験					
	授業方法 業の進め方)	教科書や過去問題に沿ったプリン	/ 	こよる演習を多用した学習に参加させる。					
	到達目標	二級自動車整備士の試験問題程度	度を角	军くことができる。					
	戈績評価の 5法と基準	・中間・期末考査及び随時行うた ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点をご	: 109	•					
	美時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作							
	多に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平昇	長の行	り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 丁動を評価するものである。 戈施設としての基準を満たす必要がある。					

科目名	自動車機	负查	英文名	Automobile Inspection				学科科目 番号	3-22
担当者	伊丹 頂	直毅	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講期	前期	前期: 2時間(回数:	16 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	32 時間
教材 教具	法令教才	本令和7年版(公論出版	()						

【学修内容】科目のねらい(目的)

道路運送車両法、道路運送車両の保安基準について、国家試験過去問題が理解できることを目的とする。

【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)
1	導入車体整備士と関係	系法令の関連を理解するための概要説明	1	
2	I. 自動車整備士技能	能検定制度のあらまし	2	
3	Ⅱ. 自動車に対する法	法規制の概要	3	
4	Ⅲ. 道路運送車両⟨抜粋⟩			
5	1.道路運送車両法		5	
6	第2章 自動車の	登録	6	
7	第3 章 道路運送	車両の保安基準	7	
8	前期中間試験		8	
9	第4 章 道路運送	車両の点検及び整備	9	
10	第5章 道路運送	車両の検査等	10	
11	第55条 自動車整	備士の技能検定	11	
12	第6章 自動車の	整備事業	12	
13	Ⅳ. 道路運送車両法	施行規則の別表	13	
14	V. 自動車点検基準		14	
15	1.日常点検基準と定	期点検基準	15	
16	前期期末試験		16	
	授業方法 授業の進め方) 授業は講義形式で行い、現車を研			「るなど、わかりやすい説明を心掛けて行う。
	到達目標	二級自動車整備士の試験に合格で	できる	らレベルの知識を理解することができる
	成績評価の 方法と基準 ・中間・期末考査及び随時行う小 ・出席率:20% ・授業態度点: 以上3項目を合計し、評価点を10			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予覧 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作			11.1
	多に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平著	素の行)、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 行動を評価するものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。
	の笛息点	また、出席数は自動車整備士一種	重養反	対施設としての基準を満たす必要がある。

科目名	自動車工学 構造性能 (ガソリン)		英文名	Automoti		学科科目 番号	3-23			
担当者	伊丹 直毅			実務経験 の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間 (回数:	回)	後期:	2 時間	(回数:	8回)	授業時数	16 時間
教材 教具	「二級ガソリン自動車」(日本自動車整備振興会)									

【学修内容】科目のねらい(目的)

ガソリン・エンジンに関する知識 (エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など) を学習する。また部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)				
1		1					
2		2	総論の小テスト・解説				
3		3					
4		4	エンジン本体の小テスト・解説				
5		5					
6		6	潤滑装置の小テスト・解説				
7		7					
8		8	後期中間試験				
9		9					
10		10	冷却装置の小テスト・解説				
11		11					
12		12	燃料装置・電子制御装置の小テスト・解説				
13		13					
14		14	燃料装置・電子制御装置の小テスト・解説				
15		15					
16		16	学年末試験				
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る 楽しく行う。	だけ『	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し				
到達目標	二級ガソリン自動車整備士の試る。	験に	合格できるレベルの知識を理解することができ				
成績評価の 方法と基準							
授業時間以外に 必要な学修							
履修に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平見	素の行	り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 亍動を評価するものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。				

科目名	自動車工学 構造性能 (ジーゼル)			英文名		ive Engine e Performa	学科科目 番号	3-24		
担当者	伊丹 正	直毅		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数:	: 回)	後期:	2 時間	(回数:	8回)	授業時数	16 時間
教材教具	「二級ミ	ジーゼル自	目動車」(日本)	自動車整備	振興会)					

【学修内容】科目のねらい(目的)

ジーゼル・エンジンに関する知識(エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など) を学習する。また部品名称や基本的な構造・作動を理解することを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)
1		1	
2		2	総論の小テスト・解説
3		3	
4		4	エンジン本体の小テスト・解説
5		5	3間、温井里のよって1 点7当
$\begin{bmatrix} 6 \\ 7 \end{bmatrix}$		6 7	潤滑装置の小テスト・解説
8		8	後期中間試験
		9	EX.79 PIPP VOX
10		10	冷却装置の小テスト・解説
11		11	
12		12	燃料装置、電子制御式インジェクション・ポンプの小テスト・解説
13		13	
14		14	吸排気装置、バルブ・タイミングの小テスト・解説
15		15	
16		16	学年末試験
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来る7 楽しく行う。	どけ耳	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し
到達目標	二級ジーゼル自動車整備士の試 る。	験に	合格できるレベルの知識を理解することができ
成績評価の 方法と基準	・中間・期末考査及び随時行うた ・出席率:20% ・授業態度点 以上3項目を合計し、評価点を	: 109	
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予 ・課題、レポートは期日までに作		-
履修に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平身	長の行	の、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 可動を評価するものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。

科目名		備 エンジン・故障探究		英文名	英文名 Automobile maintenance					3-25
	「 (ガソリン))()(p	Engine, tr	oublesho	line)	番号	0 20	
担当者	伊丹 直毅			実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	て: 回)	後期:	2 時間	(回数:	8回)	授業時数	16 時間
教材教具	「二級方	「二級ガソリン自動車」(日本自動車整備振興会)								

【学修内容】科目のねらい(目的)

ガソリン・エンジンの本体及び各装置、電子制御装置の構造・機能や制御について理解することを目的

) - (A) He)		> - > - (// He)				
【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)				
1		1	エンジンの点検・整備 基本点検の説明				
2		2					
3		3	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検の説明				
4		4					
5		5	エンジンの点検・整備 自己診断システムの点検の説明				
6		6					
7		7	後期中間試験				
8		8					
9		9	故障原因探求 故障診断の進め方の説明				
10		10					
11		11	故障原因探求 故障現象とその原因探求の説明				
12		12					
13		13	故障原因探求 故障現象とその原因探求の説明				
14		14					
15		15	学年末試験				
16		16					
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行い、出来るが楽しく行う。	ぎけ耳	専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し				
到達目標	二級ガソリン自動車整備士の試 る。	験に	合格できるレベルの知識を理解することができ				
成績評価の 方法と基準	1 • 用度※・70% • 授業帳度百・10%						
授業時間以外に 必要な学修							
履修に当たって の留意点	な姿勢があるかどうかなどの平素	長の行	の、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 行動を評価するものである。 戈施設としての基準を満たす必要がある。				

科目名	自動車整備 エンジン・故障探究 (ジーゼル)		英文名	Automob Engine, t		学科科目 番号	3-26			
担当者	伊丹 正	 直毅		実務経験 の有無	有	選択	17.41%	科目区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	(: 回)	後期:	2 時間	(回数:	8回)	授業時数	16 時間
教材 教具	「二級ジーゼル自動車」(日本自動車整備振興会)									

【学修内容】科目のねらい(目的)

ジーゼル・エンジンの本体及び各装置、電子制御装置の構造・機能や制御について理解することを目的

巻計画】 コマシラバス(前 期)	1							
ГН ГЕГ — , ✓ / / , / , (III 231)	コマシラバス(後期)							
	1 エンジンの点検・整備 基本点検の説明							
	3 エンジンの点検・整備 自己診断システムを活用した点検の説明							
	4							
	5 エンジンの点検・整備 自己診断システムを活用した点検の説明							
	6							
	7 後期中間試験							
	8							
	9 故障原因探求 故障診断の進め方の説明							
	10							
	11 故障原因探求 故障現象とその原因探求の説明							
	12							
	13 故障原因探求 故障現象とその原因探求の説明							
	14							
	15 学年末試験							
	16							
業方法 授業は講義形式で行い、出来る の進め方) 楽しく行う。	だけ専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で説明し							
	試験に合格できるレベルの知識を理解することができ							
責評価の よと基準 ・出席率:20% ・授業態度点	・中間・期末考査及び随時行う小テスト:70% ・出席率:20% ・授業態度点:10% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
	・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
こ当たって 図音占 な姿勢があるかどうかなどの平	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は自動車整備士一種養成施設としての基準を満たす必要がある。							

							/•\1\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	*> 1 —	て14年1月17年 年6	
科目名	自動車法規 自動車整備に関する法規			英文名		oile regulat d regulatio ance	学科科目 番号	3-27		
担当者	伊丹 直毅			実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間 (回数:	回)	後期:	2 時間	(回数:	16 回)	授業時数	32 時間
教材 教具										

【学修内容】科目のねらい(目的)

道路運送車両法、道路運送車両の保安基準について、国家試験過去問題が理解できることを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)				
1		1	VI. 道路運送車両法の保安基準				
2		2	第1章、総則・				
3		3	第2章自動車の保安基準				
4		4	①第1条~10条				
5		5	②第 11 条~20 条				
6		6	③第 12 条~20 条				
7		7	④第 21 条~30 条				
8		8	後期中間試験				
9		9	⑤第 31 条~40 条				
10		10	⑥第 41 条~53 条				
11		11	VII. 自動車NOx・PM法				
12		12	WII. 検査機器について				
13		13	IX.2 級自動車整備士国家試験受験対応授業①				
14		14	2級自動車整備士国家試験受験対応授業②				
15			2級自動車整備士国家試験受験対応授業③				
16		16	学年末試験				
授業方法 (授業の進め方) 授業は講義形式で行い、現車を確認			けるなど、わかりやすい説明を心掛けて行う。				
到達目標	二級自動車整備士の試験に合格できるレベルの知識を理解することができる						
成績評価の 方法と基準	・中間・期末考査及び随時行う小テスト:70% ・出席率:20% ・授業態度点:10% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
腹修に当たって な姿勢があるかどうかなどの平素 の留音点 な姿勢があるかどうかなどの平素			の、机上整理や言葉使い、授業に取り組む積極的 可動を評価するものである。 対施設としての基準を満たす必要がある。				

								※授業	美の 1 単	単位時間は4	5分とする		
科目	科目名 自動車整備作業 英文名			Automobile maintenance Practical training				学科科目 番号	3-28				
担当者 伊丹 直毅 実務経験 の有無			7	有 選排	一次修	科 l 区 s	1 専門科	・目・実習					
開請	講期 通年 前期:12時間(回数:20回)			後其	· 朔:12 時間(回数:15 回) 授業時数 420 時								
	具 全修内	自動車定容】科目	級シャシ編(日本 期点検整備の手引 目のねらい(目 を使用して作動	(日本自! 的)	動車整備振頻	具会)					情振興会)		
【挖	受業計	画】	コマシラバス	(前 期)				コマシラ	バス((後期)			
1	懸架装置	置、操舵装置、電	電装品、内装関係			1	エンジン故障探え	ミ・ ハイブリッド、シ	/ャシ・電装品	故障探求、2年定期点	 倹		
2	懸架装置	量、操舵装置、電	電装品、内装関係			2	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
3	懸架装置	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					3 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
4	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					4	4 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
5	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					5	エンジン故障探求	・ハイブリッド、シ	ヤシ・電装品	故障探求、2年定期点核	à		
6	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係				6	エンジン故障探求	・ハイブリッド、シ	ャシ・電装品	故障探求、2年定期点标	£			
7	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					7	7 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
8	懸架装置	架装置、操舵装置、電装品、内装関係				8	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
9	懸架装置	架装置、操舵装置、電装品、内装関係				9	エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
0	懸架装置	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
l1	懸架装置	置、操舵装置、	電装品、内装関係			11	1 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
2	懸架装置	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係				12	2 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
.3	懸架装置	置、操舵装置、	電装品、内装関係			13	3 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
L 4	懸架装置	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					14 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャン・電装品故障探求、2年定期点検						
5	懸架装置	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					15 エンジン故障探求・ハイブリッド、シャシ・電装品故障探求、2年定期点検						
6	懸架装置	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係											
7	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					17							
8	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係					18 19							
19	懸架装置、操舵装置、電装品、内装関係 前期期末試験												

(授業の進め方)| 作業を行う。

各作動や点検方法の理解、点検整備ができるようになる。 到達目標

成績評価の 方法と基準

- ・期末考査及び小テスト:60%
- · 出席率: 20% · 授業態度点: 20%

以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。

授業時間以外に 必要な学修

- ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。
- ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。

履修に当たって の留意点

授業態度点は、身だしなみや整理・整頓・清掃、授業に取り組む積極的な姿勢がある かどうかなどの平素の行動を評価するものである。

また、出席数は自動車整備士一種養成施設としての基準を満たす必要がある。

【令和] 7 年度	シラバス】 岡山	科学技術	專門勻				自動車工学	
科目名	自動車	英文名		omobile inspection	※授業の1単位 ion		立時間は 45 学科科目 番号	<u>分とする</u> 3-29	
担当者	有者 伊丹 直毅			有 選択 必修 科目 必修 区分				専門科目・実習	
開講期	講期 後期 前期: 時間(回数:			後其	明:12 時間(回]数:	5回)	授業時数	60 時間
【授業		コマシラバス(前期)			·		ベス(後		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13				1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13					
14 15 16 17 18 19 20				14 15 16 17 18 19 20	車検整備作業 車検整備作業 車検整備作業 車検整備作業 学年末試験				

授業方法 (授業の進め方)	安全作業・整理・整頓・清掃を徹底しながら、実車及び単体部品を使用して実践的な 作業を行う。
到達目標	各検査機器の使用方法の理解、車検整備ができるようになる。
成績評価の 方法と基準	・期末考査及び小テスト:60% ・出席率:20% ・授業態度点:20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。
履修に当たって の留意点	授業態度点は、身だしなみや整理・整頓・清掃、授業に取り組む積極的な姿勢がある かどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は自動車整備士一種養成施設としての基準を満たす必要がある。